

## 【効果】歩行量に関する補足

### 歩行量調査のガイドライン、パーソントリップ調査を活用した、目標に関連する効果の算出について

参照：まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量（歩数）調査のガイドライン(平成29年3月)  
 パーソントリップ調査結果（平成22年）

#### ■前提

野洲市では歩行量を測定していないため、「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量（歩数）調査のガイドライン(平成29年3月)」(以下「ガイドライン」と記載)に記載のある人口5万人未満の市の歩数の中央値を採用する(6ページ参照)。

なお、ガイドラインでは、多く歩く人の存在が平均を押し上げており、モニタリングには中央値を採用することを推奨しており、本市も平均値ではなく、中央値を用いて分析を行います。

人口5万人未満の都市

(単位：歩/日)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
(男性)歩数の中央値	6,884	7,014	7,102	6,725	5,810	2,761
(女性)歩数の中央値	5,845	5,857	6,798	6,234	5,450	1,607
(男女計)歩数の中央値	6,507	6,220	6,905	6,449	5,624	2,020

出典) 国民健康・栄養調査(2008～13年, 2012除く)から国土交通省作成

#### ■歩行数目標値の検討

上記表に「ガイドライン」10ページに記載があるように、「日常生活における歩数の増加（+1,500歩）」を目標として設定します。上記表に+1,500歩を勘案した目標値は以下となります。

野洲市の目標数値

(単位：歩/日)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
男性	8,384	8,514	8,602	8,225	7,310	4,261
女性	7,345	7,357	8,298	7,734	6,950	3,107
男女計	8,007	7,720	8,405	7,949	7,124	3,520

#### ■医療費換算

「ガイドライン」より、1日+1,500歩で年間約35,000円の医療費抑制効果があるとされており、1歩あたりの医療費抑制効果は「0.065～0.072円/歩/日」が原単位として示されている。

以下、1歩あたりの医療費抑制効果を0.065円/歩/日を原単位として試算を行う。

外出人口

(単位：人)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	計
男性	2,279	3,376	3,011	2,781	3,076	2,067	16,590
女性	2,290	3,248	2,369	2,757	2,644	2,240	15,548
男女計	4,569	6,624	5,380	5,538	5,720	4,307	32,138

パーソントリップ調査(H22)より抜粋

野洲市における20歳以上の外出人口の合計は32,138人であり、全ての人の歩行数を1日+1,500歩(平日のみ)として試算した場合、年間の医療費抑制効果は

$32,138人 \times 1,500歩 \times 0.065円 \times 365 \times (5/7) \div 1000 = 816,936千円$ となります。